

第85回 東葛しぜん観察会

虫のきもちで自然たんけん

藤田 隆 (松戸市)

日 時：2012年10月6日（土）13時30分～15時30分、10時～下見会

場 所：21世紀の森と広場（松戸市） 天気：晴

参加者：子ども15名、大人17名、指導員16名

担当指導員：草野幸子 渋谷孝子 藤田 隆

太陽が顔を出すと汗ばみ、雲に隠れると暑さもさほど気にならない天候の中で始まった観察会は「子どもも大人も」の副題の通り、子ども、大人のどちらにも楽しめる企画内容になりました。

挨拶と注意事項の話が終わると、早速行動開始。ある班は花壇にしゃがんでミツバチの行動を観察。ミツバチが花の蜜を吸うところが観察できました。大人班はバッタの顔の形が主人公の顔になっているテレビ番組（仮面ライダー）があったという話題から、虫の気持ちになって観察してみようと出発しました。虫網を振り回すと大物が飛び出しました。カラダの特徴をみてみると、羽には車模様が見られました。頭から背にかけては盛り上がりが見られました。この公園では珍しいクルマバッタでした。さらに小さ目のショウウリョウバッタが網に入りました。そうなると昔少年も火がついたようにプラカップの容器でバッタを追いかげ始めました。虫捕り少年がよみがえったようです。クルマバッタモドキ、トノサマバッタ、オンブバッタが次々に運ばれ、プラカップも飛ぶようになくなっていました。

ショウウリョウバッタとトノサマバッタの触角の長さの違い、飛ぶ距離の違いに話が及びました。草丈の高いところと低いところといった環境の違いは飛ぶ距離の違いにも関係しているのではないか、触角の長さの違いには気付かなかったといった声も聞かれました。エンマコオロギとは顔を近づけにらめっこ状態でエンマ様を確認しました。コバネイナゴ、背中に白い線が一筋入ったツチイナゴが次々にプラカップで運ばれ、じっくり眺めることができました。草丈の高い場所ではオオカマキリ、チョウセンカマキリ、ハラビロカマキリ、コカマキリの様子を眺め、交尾の最中も観察できました。交尾の後にメスがオスを食べてしまう場面に出会った話が飛び出し「私も見た」との声が聞こえました。コスモス畑ではモンキチョウ、キチョウが現れ、紫外線写真で撮影したキクイモの写真を参考にチョウの眼になってみました。ツマグロヒョウモンのメスが網にかかると南方系のチョウが北上している話題になりました。木の枝にかかっていたのはゴミグモの巣で、ゴミに蹲るようにしてその姿は現しませんでしたが、すぐ脇にいたジョロウグモ、シロカネイソウロウグモが観察できました。参加者からは「みんなで来るといろんなものが見られる」との感想が聞かれました。

虫の観察を終えて広場に集まると、ゲームを行いました。スズランテープを使って6m四方の枠を2面作り、木肌のまま、赤色、緑色に染めたツマヨウジをそれぞれ50本、バッタに見立てて枠内に散らばしました。参加者はムクドリになった気持ちでツマヨウジバッタを探しました。制限時間は2分。終わってみると赤色が48本、木肌色が18本、緑色が17本という結果になりました。ゲーム前には緑色、木肌のままのものが見つけにくいだろうと思っていましたが、数字で結果が表れると驚きの表情が参加者の顔に表っていました。虫のきもちになって、楽しい自然たんけんの観察会でした。



コオロギは翅をすり合わせて鳴きます